



環境

支笏洞爺国立公園をモデルとした生態系保全のためのニホンジカ捕獲の技術開発

— 「環境研究総合推進費 D1103」採択研究 —

農食環境学群 / 環境共生学類 / 野生動物保護管理学研究室

吉田 剛司

[Tsuyoshi Yoshida] 教授 [博士(農学)]

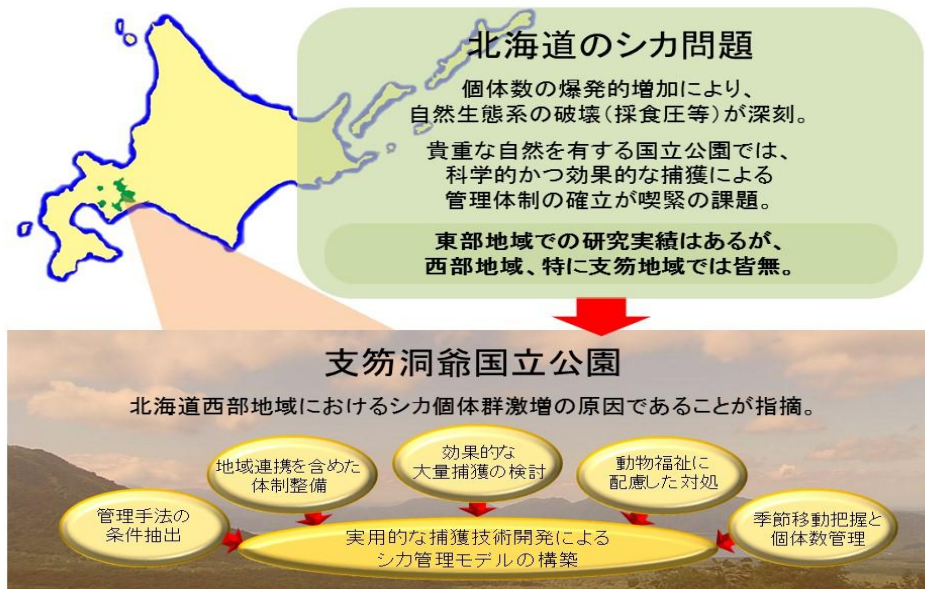


● 研究の概要

国立公園など鳥獣保護区でシカは高密度化し生物多様性保全の障害となった。本研究では、「条件抽出」、「体制整備」、「捕獲効率」、「行動と動物福祉」、「個体数管理と季節移動」を支笏洞爺国立公園にて追究し、新たなシカの捕獲技術の開発に成功した。

● 研究の内容・特徴

本研究では、洞爺湖に位置する中島でのシカ密度操作に初めて成功した。環境省、森林管理局、洞爺湖町との連携により、効果的にシカ捕獲に成功して、研究開始期には約280頭も生息したシカを島内で目標値である約50頭まで個体密度を下げることに成功した。目標値に達したシカ管理は国内で少なく、様々な手法でシカを捕獲した本研究の成果は、各地での応用が可能となる。さらに本研究では、国内で初めて国道を封鎖してシャープシューティング(専門家集団によるシカ捕獲)の実証実験を行った。国道453号線を関連省庁、市町村、警察などと連携した国内での最新事例の作成に成功した。国道を短時間であるが通行止めにして、その間に補殺から残滓処理まで実施した本研究は、今後は他地域での応用が強く期待されている。



● 用途・応用例

- ・市町村でのシカ有害駆除
- ・鳥獣保護区のシカ問題対策
- ・
- ・
- ・
- ・

● アピールポイント

本研究はGPS発信機をのべ32頭に装着した国内でトップクラスのシカの行動追跡を実証した研究である。広域で移動するシカの管理には、複数の市町村や支庁で科学的な根拠に基づいた管理計画の立案が必要であり、成功には本研究室のようなコーディネートの存在が必須である。

● 本研究に関連する知的財産

発明の名称：
特許番号：

● 研究室のホームページ

<http://rgu-wildlife.info/>